

**「魚臭い銀貨」(要旨)**  
**聖書箇所：マタイの福音書17章24~27節**

**【1】 あなたはどちらの側ですか**

「あなたがたの先生は神殿税を納めないのですか」(マタイ 17:24)。主イエスが神殿税を納めるか否か。カペナウムのペテロの家を訪れた集金人たちの関心ごとでした。家主であるペテロは「納めます」と答えました。当時、神殿礼拝を維持するためユダヤ人の成人男性の大部分は毎年神殿税を納めていたからです(参照出エジプト 30:11-16)。

家に戻ったペテロに対して、イエスはご自分から神殿税を納める義務がないことを明らかにされます。それは、イエスにとって宮は「父の家」(ルカ 2:49)であり、ご自分は「宮よりも大なるもの」(マタイ 12:6)であるからです。しかし「あの人たちをつまづかせないために」という理由から、神殿税を納めるよう促しました。

サドカイ人たちを中心に、神殿税を納めるべきか否かは度々議論になっていたようです。当然集金人たちはイエスの立場に関心を持ちます。しかしイエスの関心はそこにはありませんでした。ご自分が納める義務はないけれど、集金人をつまづかせないために「納める」と回答されたのです。



ツロの4ドラクマ銀貨(BC125-70)  
4ドラクマ=1スタテル「新聖書辞典」

**【2】 魚臭い銀貨**

イエスはペテロに魚釣りに行くよう促しました。湖に行って釣り糸を垂れて来い、と。ペテロは家にいましたので、仮にその時銀貨が手元になかったとしても、家中を探しまわるか、もしくは家族に工面してもらうことができそうな金額です。ところがイエスは最初にとれた魚の口から銀貨が見つかるのでそれで納めよと言うのでした。

漁師ペテロにとってこの提案を受け入れることは容易ではなかったでしょう。これまで何千何万という魚を捕まえてきました。その漁師人生で一スタテル銀貨を口に入れ

た魚を捕まえたことがあったでしょうか。「先生、ご冗談を(笑)！」と返答したくなる提案です。

イエスはご自分の弟子たちに、度々無茶と思える提案をしています。例えば夜通し漁をしたものの何も捕れず疲労困憊する弟子たちに、「深みに漕ぎ出し、網を下ろして魚を捕りなさい」(ルカ 5:4)と言われた場面。もうこれ以上やっても無駄だという場面です。しかし、半信半疑であっても主のことば通りに実行した弟子たちは、一艘の舟で引き上げることのできないほどの大漁を通してイエスの不思議なみわざを経験しました。復活されたイエスと再会する場面もそうでした。一晩中漁をしたけれども何も取れずに迎えた朝。岸辺から「舟の右側に網を打ちなさい。そうすれば捕れます」(ヨハネ 21:6)と声が響きます。この時の弟子たちは、このような提案をし、その約束を実現できるお方はイエスに違いないと、復活のイエスに気づいて喜びました。

私たちは物事の判断を、過去の経験や自分の知識に基づいてします。それは人が生きていくために必要不可欠な資質です。しかしその自分の判断や知識に絶対的な信頼を置くあまりに主のことばを素直に聞くことが出来なくなっているはいないでしょうか。

「銀貨を得るために湖に行って糸を垂らして来い」。このイエスのチャレンジは、なんともユーモラスです。どちらが正しくてどちらが間違っているのかと思案し心に余裕を失いやすい私たちに、イエスはこう励ましておられます。「わたしのことばに耳を傾けなさい。

「…よわきわがたまの 湯くおりしも  
目の前の岩は 裂けて水わく…」

(『救い主イエスと』教会福音讃美歌 409 番)

▷ 「主よ、お話をください。しもべは聞いております」(1サムエル 3:10)という姿勢で、主のことば(聖書)に聞き歩みましょう!